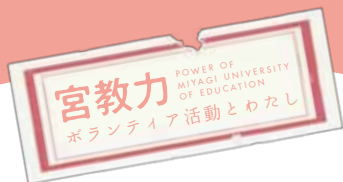


# 飯野 彩

Aya Iino

障害児教育教員養成課程 言語障害児教育専攻  
平成20年3月 卒業



## ボランティア活動の経験から

私は現在、山形県立の病院で言語聴覚士として働いています。言語聴覚士とは、言語機能や飲みこみ機能に関するリハビリを行います。現在の職場では主に高齢者を相手にしています。

中学生や高校生のときに地域のボランティアサークルに所属していたこともあり、大学時代にもボランティア活動に積極的に参加しました。教育大学であるために、子どもたちとかかわるボランティアが多いですが、その活動を通して、保護者とかかわりや実際に現場で活躍する先生方もかかわりが広がることは、とてもいい経験となりました。

数年にわたって、幼児～中学生までの託



児ボランティアに携わりましたが、会うたびに成長する子どもたちから、年齢に適



したかかわり方の工夫、子どもたちの反応の違いなどを実感していました。また、聴覚や視覚などに不自由さがあり、ひととのやりとりを苦手とする方々とかかわった経験からは、場所や気持ち、情報を共有するということの難しさや大切さを痛感しました。

これらは年齢や障害等に関係なく、対人間のあらゆる場面で共通して考えられることであると思います。相手に自分のことを伝え、相手のことを知り、お互いに理解しようとしあうことの大切さを考えることにつながっていたのではと思います。

ボランティア活動を通し、ひととひとの新たなかかわり、新しい自分との出会いができると思います。